

Next

発行所 一般社団法人 茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22
電話 029 (221) 5126 (代)

ホームページ <http://www.miraikyo.com>

発行人 梅原基弘

編集 日本工業経済新聞社水戸支局

平成25年度基本方針

建設未来協議会 会長 梅原基弘

新政権の発足とともに、平成25年度は私たち建設業の意義が問われる年になると考えます。自民党がかねてより提唱していた『国土強靱化基本法』も5月国会に提出される運びで有り、「東日本大震災からの復興促進、事前防災・減災、そしてインフラの老朽化対策」などを盛り込んだ基本理念により、10年間で200兆円ともいわれる巨額を全国の脆弱であるインフラ整備に投じられます。

既に執行されている景気・雇用対策としての大型補正を加えると大幅な公共事業費の増となり、今までよりもまして「公共事業復権」の是非に対する「国民の声」はより高まることになるでしょう。

だからこそ、国民より「信託」を得て社会資本整備を行う我々は諸手を挙げて喜ぶのではなく、国民に建設産業の必要性を理解していただけるように、このチャンスを慎重かつ迅速に実効性を高めなければなりません。「地域を守っていく地元建設業」として「良い仕事をし、顧客の信頼を得る」このことに専念し、安心安全なまちづくりに官民共に取り組みなければならぬと考えます。

～建設産業の現状と課題～

建設産業は、人の毎日の生活の基盤となる住宅をはじめ、道路、河川、港湾、上下水道などの社会資本、さらには経済社会の発展の基礎となる産業施設、そして教育・社会施設など、私たちの暮らしを



支える経済社会基盤を建設・維持管理していく、社会にとってなくてはならない産業です。

また、災害時には、その最前線で地域社会の安全・安心の確保を支える「国土や地域の守り手」として、大変重要な役割を果たします。その使命感は、東日本大震災や各地の豪雨災害での活動などで、改めてその重要性が再認識されたところです。

しかしながら、近年の景気低迷や公共投資の縮小傾向などにより、建設産業を取り巻く環境は大変厳しいものとなっており、建設投資はピーク時の半減、許可業者は約2割の減少となるなど、過剰供給構造による受注競争の激化などにより、地域を支える建設産業が疲弊し、就労環境の悪化、担い手の確保に支障が生じています。

～地域を守っていく地元建設業～

事業を承継していくのに必要なものは「人財」です。特に、次世代を担う若手技術者・技能者の就業確保は建設産業界に於ける大きな課題であり、「高校生・専門学校生」を対象とした現場建学会・現場実習の開催は入職促進に向けた大きな責務だと考えております。

また、学校・教員との連携として定期的な意見交換会を開催するなどにより、教育機関との連携強化を図ります。そして、建設業従事者の安定した生活の確保に向けた雇用改善にも取り組みます。

～建設業の広報戦略～

私たちは「建設フェスタ」にて、未就学児から、小学生・中学生にそして保護者の方々に「建設産業の意義と魅力」を伝えてまいりました。

しかしながら、建設産業に関心を示す若者が大きく減っている事、世間一般と建設業関係者との認識に大きなギャップがある事などを踏まえ、世の中一般の受けての方々の目線に立ち内容を再考察し、残すものと変えるべきものを精査し「建設フェスタ 2013」を開催いたします。

情報発信としては影響力が大きいテレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のマスコミへの働きかけはもちろんですが、情報化社会と言われる現代においては、ホームページの充実・若者に利用の多い、フェイスブック・Twitterなどのソーシャルメディアの活用、YouTubeなどの動画サイトの活用など手法を駆使し世間一般の方々へメッセージを発信し『建設産業の見える化』が必要であると考えます。

～防災力の強化のため官民連携～

東日本大震災より2年余が過ぎ県土における公共施設の復旧は、一部の港湾・橋梁を除きほぼ完了されました。一方で近い将来発生すると考えられている、首都直下型地震などの大規模災害に備えた応急復旧体制、情報収集・提供、資機材確保、そして行政との円滑な連携を確立する仕組みが必要であると考えます。

平成24年10月に茨城県土木部が、大震災の教訓を

踏まえた緊急輸送道路の強靱化及び回復力強化に向け策定した『復興みちづくりアクションプラン』。

このプランでの問題・課題を、国土交通省が推奨している『BCP（建設会社における災害時の事業継続力認定）』の仕組みと両者を関連付け整合性を高める事により、発災時における建設業界のスピード感を持った対応力の向上につながると考えております。このことが、さらなる官民連携による防災力強化にもつながると考えます。

～設立20周年～

当協議会は平成5年6月21日に「建設業に従事する次世代を担う経営者が魅力ある建設業の創造と地域の発展に寄与する」を目的に設立され、本年20年の歴史を重ねます。

現会員には、設立時を知るメンバーも2～3名を数える程度となりこの機に、特設委員会を設け諸先輩方が歩まれた20年間の軌跡を振り返りそして、新たなスタートととらえ記念の事業を開催させていただきます。

以上のように今年度も、事業計画に基づき4つの常設委員会と一つの特設委員会、そして6つの地区会にて積極的に活動をさせていただきます。

『名は体を表す』のことわざのように建設未来協議会は、会員企業が信頼と言う強いネットワークのもと切磋琢磨し、経営と技術を研鑽し、「雇用と納税」により社会に強く貢献し県民より「信託」を得ることであると思います。

そのためにも、会員一人一人が変化の速い社会環境に対応できる柔軟な認容力と発想力そして迅速な決断力が求められていると思います。

最後に、『大事の前の小事』このことわざは、「大きな事を成しとげようとするときは、小さな事を軽んじてはならない。ちょっとした油断が大失敗を招く」という教えであります。

この言葉を、運営の基本として1年間の責務を全うさせていただきますので、今年度も当協議会の運営に協会本部・会員並びに関係各位の皆様方の更なるご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

平成25年度 第21回定時総会を開催

—地域を守っていく地元建設業として良い仕事をし信頼を得る—

総務委員会 河野 真

本協議会の平成 25 年度第 21 回定時総会が 5 月 17 日（金）午後 4 時より水戸市のフェリヴェールサンシャインにおいて、会員 73 名や多数の来賓の方が出席して開催されました。

冒頭で大貫会長から会員に向け 1 年間の協会ならびに地域などへの協力に対して感謝の言葉を述べられた上で、「今後 10 年、20 年後の業界の行く末、未来を作るのはわれわれ自身で変化に柔軟に対応出来るように皆さんと協力していきたい」との挨拶がありました。続いて（一社）茨城県建設業協会尾曾副会長より「建設業協会と未来協議会が協力しあって建設業を盛り上げていきたい」との御挨拶を頂きました。

その後、規約により大貫会長が議長に指名され、次の議案を審議致しました。

- 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告の件
- 第 2 号議案 平成 24 年度収支決算報告の件及び監査報告
- 第 3 号議案 規約改正（案）の件
- 第 4 号議案 特設委員会設置（案）承認の件
- 第 5 号議案 平成 25 年度事業計画（案）の件
- 第 6 号議案 平成 25 年度収支予算（案）の件
- 第 7 号議案 役員改選の件

各議案はいずれも原案どおり全会一致で可決、そのうち役員改選で新会長に(株)梅原工務店・梅原基弘氏、副会長に(株)五霞建設・菊地和幸氏、(株)鈴木良工務店・鈴木勝彦氏、西野工業(株)・山崎剛氏、(株)端工務店・端利一氏が選任されました。

新役員を代表して、梅原新会長が、「我々は地域を守る、国民を守ることが大事な役目。安全・安心の地域作りを進めて行き、地域に貢献する企業を目指していきたい」との抱負を述べられました。

議案審議後、御来賓の茨城県土木部照沼孝雄総括技監より「復興みちづくりアクションプランや津波対策、道路、港湾の整備の促進を重点に進め、4 月 1 日以降は新単価の施行、人材育成に共に協力していきたい」との御挨拶を頂きました。

さらに、国土交通省関東地方整備局久保田一常陸河川国道事務所長から、「長年にわたる工事量の減少傾向の流れが今年は変わってきたと肌で感じております。この流れを持続していくためにも事務所、協会ともに協力して参りたい」との御挨拶を頂きました。

総会終了後の懇親会では、多数のご来賓の方々にも



総会では25年度の事業計画などを決定しました



茨城県建設業協会の尾曾副会長



茨城県土木部の照沼総括技監



国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の久保田所長



梅原会長以下、新役員が選出されました

出席して頂き、また今総会をもって本会を卒業される方々より思い出話や新入会員の今後の抱負などを述べて頂きました。本会は今年で 20 周年の節目を迎え、今後のさらなる発展を目指し、地域を守る地元企業として、信頼を得ることを目標として掲げ、本総会は幕を閉じました。

高校生などが建設業を体感！ 現場見学会・現場実習を開催

人材育成委員会 委員長 篠崎 尚史

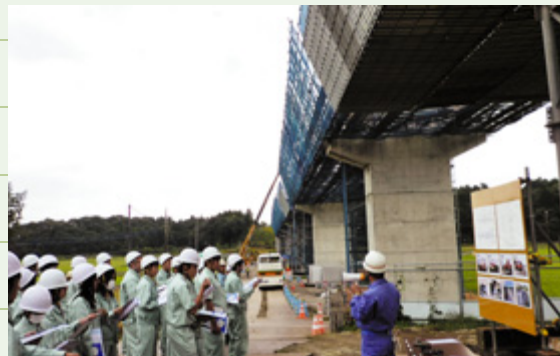
人材育成委員会は、CCI活動の一環として発注者や会員の皆様のご協力を得て、将来を担う若い人たちに建設業への理解と関心を深めてもらい若年層の入職促進を図るため、県内の高校生や専門学校生、大学生を対象とした建設現場見学会と現場実習を毎年実施しております。

現場見学会は、高校、専門学校、大学などの8校から合計430名が参加し、7月から11月にかけて10回に分けて開催し、水海道一高管理・普通教室改築工事や勝倉アパート4号棟建設工事、圏央道阿見吉原土地地区画整理事業、圏央道事業などの大型プロジェクトを肌で感じていただきました。

実際に現場に立った生徒たちは、一人一人熱心に見学しながらも現場担当者に事細かく質問をして、将来に役立つように見学していました。また現場担当者も丁寧に受け答えに応じて頂き、有意義な現場見学会になったと生徒達も感謝しております。



現場実習状況



圏央道事業現場見学会

現場実習は7月から9月まで、会員35事業所が、高校3校57人、専門学校3校40人を受け入れて実施しました。各事業所が3日間現場の状況や建設業の役割を説明し、丁張設置CAS、生コン打設などを実際に体験してもらいました。

参加した学生からは「授業では体験できないことが出来て良かった」「将来の参考になった」などの声がよせられました。

昨年末に政権も変わり建設業を取り巻く環境も少しずつですが改善されて来ていますが将来の人材確保や人材育成が出来なければ国の基幹産業である建設業は衰退の一途をたどってしまいます。しかし皆様のご協力等もあり今年度の新卒者の採用は、昨年度よりも大幅にアップすることが出来ました。

最後に、この企画にご協力頂きました国土交通省、茨城県土木部検査指導課、大洗町の皆様及び、実習生・見学生を快く受入れて頂きました企業の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後のご支援ご協力をお願いいたします。

「建設フェスタ2012」開催!!

副会長（地域貢献活動委員会担当） 山崎 剛

昨年の10月28日（日）、19回目となる「建設フェスタ2012」をひたひたなか市内にて開催いたしました。

天気予報は曇りのち雨で降水確率50%。昨年に続き天候を気にしながら準備を進めることになりましたが、過去18回雨で中止になったことのないフェスタ。迎えた当日の朝は若干曇りで無風、このままって欲しいと祈りながらお客様を迎えました。午後からの天気崩れを見込んで、朝のうちから多くの来場者があり開会2時間後には駐車場もほぼ満車の状態となりました。

参加型、体験型のイベントには受付開始前から長い列が出来ました。建設作業体験リレーやミニブロック作りはもちろん、日立建機株式会社様の協力による工場見学では世界最大級の油圧ショベルが見られるとあって凄い人気でした。親子競演丸太切り、地元前渡小学校吹奏楽部の演奏、クイズラリー抽選会ではステージ前に大勢のお客様。チャリティーオークションでは、骨髓バンクを支援するいばらきの会様より頂いた読売巨人軍選手のサイン色紙をはじめ、各協賛団体様より多種多様な商品を提供頂いたおかげで、多くの収益がありました。なお、収益金は「骨髓バンクを支援するいばらきの会」様と「茨城新聞文化福祉事業団」様へ慈善金として寄付させていただきました。

又、今年も日本赤十字社と骨髓バンクを支援するいばらきの会に協力を頂き「愛の献血」と「骨髓ドナー登録会」を会場内で実施し、それぞれ66名と12名の協力を頂くことができました。ご協力頂いた皆様に改めて御礼申し上げます。

イベントのフィナーレとなるミニ上棟式開始の頃に雨が振り出しましたが、撒き餅を楽しみに来ている子供たちの元気な歓声を聞くことが出来ました。



上棟式には多くの子どもたちが参加しました



親子競演丸太切り大会

今年の来場者数は昨年比+2,000人の15,000人。悪天候の中、足を運んで頂いたお客様に感謝です。来場下さった方には、建設業の魅力や社会資本の大切さを少なからず伝えることが出来たと思います。建設業PRの貴重な機会であるフェスタも来年は20回目となります。これまで先輩方や我々の仲間が築いてきたフェスタの歴史を大切にしながら、建設業イメージアップ効果のさらなる向上を目標に、工夫を続けていきたいと考えています。

「建設フェスタ」開催のために協力頂いた各機関、団体の皆様にあらためてお礼を申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。



ボトルキャップアート



重機体験

委員会紹介

総務委員会

担当副会長 菊 地 和 幸
委員 長 吉 田 長 邦

総務委員会は、5月17日に開催いたしました、定時総会の企画・運営をはじめ、茨城県土木部及び国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しております。季刊誌NEXTの発行並びに当協議会のホームページの企画・更新管理、また会員名簿の作成や毎年11月に開催しております親睦行事など、委員会活動は多岐にわたっております。担当副会長として菊地副会長をお迎えし、会員各位への連絡調整及び情報の提供に努めるべく、委員会メンバー全員が一丸となって、活動しております。会員各位のご協力を心からお願い申し上げます。

<今年度の主な事業>

1. 総会、役員会の企画運営
2. 季刊誌NEXTの企画・編集・発行
3. 未来協議会ホームページの企画・管理・情報発信
4. 未来協議会の予算決算に関する業務
5. 会員名簿の作成
6. 各発注機関との意見交換会の開催及び運営
7. 親睦行事等の開催及び運営
8. 各委員会、地区会、会員への連絡調整、情報提供



懇親ゴルフ ▲

人材育成委員会

担当副会長 鈴 木 勝 彦
委員 長 大 橋 一 博

人材育成委員会は、高校生・専門学校生を対象に、現場見学会や現場実習を通して、今後の建設業を担う学生の皆様に建設業の魅力や必要性を正しく理解して頂くことを第一に考え、日々活動しております。

現場見学会においては、茨城県内で進行中の建設事業を実際に見て進路の参考にして頂き、現場実習においては、若年建設従事者入職促進事業の一環として、対象者を協会本部会員企業とともに、建設未来協議会会員企業が受け入れ、工事現場の仕事を実際に体験して頂き、現場見学会とあわせて、対象者が近い将来における職業選択の糧となるよう努めております。

平成 25 年度においては、総勢 18 名の委員で力をあわせ建設業の魅力をより多く発信していきたいと思っております。

<今年度の主な事業>

1. 高校生・専門学校生の現場見学会の実施
2. 高校生・専門学校生の現場実習の実施
3. 建設業従事者の雇用改善

建設現場見学会 ▶



地域貢献活動委員会

担当副会長 山崎 剛
委員長 大曾根 理一郎

地域貢献活動委員会の主な担当事業は、「建設フェスタ」企画・運営です。

今年で節目の20回目となる「建設フェスタ2013」は、10月27日(日)の開催予定となっております。建設業の楽しさ、大切さについて子供たちを中心にPRするイベントですが、我々建設業関係者の姿を広報し、災害時の昼夜をいとわない応急復旧活動や社会資本整備の大切さを改めて伝えていきたいと考えています。

「建設フェスタ」が楽しく盛大なイベントになるように、委員一丸となってしっかり準備したいと思います。

<今年度の主な事業>

1. 建設フェスタ2013の企画運営
2. 献血・骨髄バンク登録事業への協力
3. 地域福祉事業への支援



建設フェスタ2012 ▶

建設システム委員会

担当副会長 端 利一
委員長 小林 圭一

建設システム委員会の事業内容は、大規模災害に備えた防災力強化のシステム作りと、講習会の開催です。大震災の教訓を踏まえた緊急輸送道路の強靱化や通信手段の確保等、茨城県土木部と連携して進めてまいります。また会員の皆様に事業継続計画(BCP)取得を推進するなど、さまざまな防災活動に取り組んでまいります。

<今年度の主な事業>

1. 大規模災害発生時の災害協定強化への調査・提言
2. 会員企業への事業継続計画(BCP)の取得推進
3. 経営力強化のための講習会の開催



道路保全強化推進室との意見交換会 ▶

中学生ウッディーハウス建設体験学習

～行方市立麻生中学校にて開催～

鹿行地区幹事 小野口 整慶



平成 24 年度の CCI 茨城「ウッディーハウス建設体験学習」は行方市立麻生中学校にて 2 年生総生徒数 113 名を対象に 10 月 10 日・26 日の 2 日間で開催しました。

1 日目は 4 クラスを 6 班に分け、前半 3 班は「鉄筋の加工及び組立作業」「測量体験」「直角三角形を作ろう」を行い、後半 3 班は「基礎コンクリート打設」「測量体験」「直角三角形を作ろう」を行いました。鉄筋の加工組立作業は、鉄筋の切断をする際、上手に出来る生徒も居れば、なかなか切断出来ない生徒も多く、切断が上手くいく毎に歓声を上げながら楽しそうに加工を行い、組立作業では初めて持つハッカーをクル・クルと回しながら、生徒と未来協議会員の人たちと色々雑談を交えながら楽しく組立を行いました。生コン打設作業の時は、男子生徒が自慢の力を女子生徒に存分に見せ、無事生コンが固まる前に打設を完了することが出来ました。(生コンが固まってしまうのでは無いかと冷や冷やだったのは内緒です)。

2 日目は 1 日目と同様に 6 班に分け前半組・後



半組で、3 班中の 1 班は「木工建て方」他の 2 班は「重機操作体験」を行いました。重機操作体験では歓声悲鳴が入り交じり慣れない手つきで重機を動かしていました。

また、11 月 14 日に引渡式を行い、茨城県検査指導課の方々を始め多くのご来賓の方々に足を運んでいただき盛大に開催出来ました。ログハウスの名称は生徒達からの募集結果で『ASO ウッディーハウス 2012』と決定しました。

最後に、今回の体験学習にご協力、ご指導、ご鞭撻を頂きました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

茨城県土木部との意見交換会を開催

—官民立場は違えど、目標は一つ 円滑な業務を目指して—

総務委員会 副委員長 後藤 一憲

平成24年8月3日（金）午後2時より水戸市ホテルレイクビューにおいて、茨城県土木部と建設未来協議会の意見交換会を開催致しました。茨城県土木部からは、宇野光義総括技監をはじめ、浅見秀世技監兼検査指導課長、岩田豊管理課長、監理課、検査指導課より多くの職員の皆様にご出席を頂きました。

意見交換会に先立ち、大貫会長より、「官民立場は違えど、目標とする所は一つである。それぞれが抱える問題や課題について、忌憚のない意見を出し合い、改善できるところは速やかに改善して円滑に業務が出来るようお願いしたい」と挨拶がありました。引き続き、宇野光義総括技監より、「健全な地元業者の存在なしには、災害等の対応に支障が生じることになる。入札制度改革においても地元業者がより多く参加できるような運用をしてみたい。未来協議会会員の皆様には模範的な会社になってほしい」とお話がありました。

意見交換会は、茨城県土木部からの情報提供ではじまり、日頃より建設未来協議会の会員が感じていること、日頃抱かえている問題や課題等について意見交換を行いました。

【茨城県土木部からの情報提供】

1. 入札・契約制度の改正について
2. 社会保険未加入問題への対策について
3. 工事現場における盗難の多発について
4. 工事故について
5. 指定工場制度について
6. 設計審査の充実強化について
7. 施工条件表示及び設計変更の明確化について
8. 建設工事書類の簡素化について

9. 電子納品ガイドラインの一部改定について
10. 電子入札にカードの有効期限に関する注意について
11. 災害対応に関する建設業協会各支部と土木（工事）事務所の意見交換会の実施について

【意見交換】

1. 通信障害時における、優先的な通信手段の確保について
2. 積算単価の設定について
3. 工事施工の円滑化について

上記の項目について、それぞれの要望・質問に対し、監理課、検査指導課の皆様には大変熱心に前向きな回答を頂き、有意義な意見交換会となりました。

今後も、茨城県土木部の皆様との意見交換会を定期的に継続することで、情報交換を密に行い業務の円滑な施行が出来るよう、お互いの信頼関係を深め、技術・品質の向上に繋げることが大切であると感じました。



関東地方整備局常陸河川国道事務所との意見交換会を開催

総務委員会 副委員長 櫻井 俊一

去る平成 25 年 1 月 31 日（木）常陸河川国道事務所会議室にて、発注者と受注者双方が抱える諸問題の改善に向けて取り組むことを目的に、意見交換会を開催しました。

常陸河川国道事務所からは久保田所長、竹内副所長、関副所長はじめ工事発注担当課長の方々が、建設未来協議会からは大貫会長はじめ役員 17 名が参加しました。

冒頭久保田所長より「先の東日本大震災、台風 15 号により被災した河川・道路管理施設の復旧工事が今年度で完了予定であり、皆様のご協力に感謝しております。また来年度からは技術提案が簡素化される総合評価落札方式（二極化）の本格的導入や入札談合事案を踏まえた入札書

と技術提案書の同時提出などの入札契約制度の変革がある。震災災害時に建設業が果たした役割は大きく、地域の防災力に極めて大きな役割を有していることは国民にかなり浸透してきたが、今後もアピールしていくことが重要である。本日は限られた時間ではあるがより有意義な意見交換会となるようお願いしたい。」との挨拶をいただきました。

議事ではまず双方の情報提供として常陸河川国道事務所より

- ①地域防災力の向上への取組み状況について
- ②施工パッケージ型積算方式について

- ③第三者による品質証明の導入に向けた試行について
 - ④建設現場悩み相談窓口の設置について
- 当協議会からは
- ①建設業の必要性等アピールに対する情報発信の取組みについて
 - ②書類の簡素化について
 - ③交通誘導員について
 - ④当初設計について
 - ⑤段階・立会確認について
 - ⑥品質証明員について
 - ⑦各事務所・各出張所の対応について
 - ⑧品質管理基準の試験頻度について

以上の 7 項目について具体的事例を交えながら双方の意見を交換しました。



最後に久保田所長より「協議会からいただいた意見・提案は上部機関等に伝えて行く事とし、問題が生じたその時には速やかに解決を図る必要があるので、互いの距離を短くし今後ともコミュニケーションの向上を図りたい」というお言葉をいただき意見交換会を終了しました。

● 平成24年度入会者

地区	氏名	商号	郵便番号	住所	電話番号	FAX 番号
県南	飯塚 亮平	飯塚建設(株)	300-0612	稲敷市市崎 1336-2	0299-79-2712	0299-79-1863
大宮・大子	根本 貴史	ネモト建設工業(株)	319-1117	東海村東海 3-8-48	029-282-3208	029-287-0430
県南	石川 崇	北条工業(株)	300-4351	つくば市上大島 31-2	029-866-1251	029-866-1895
県南	赤塚 剛	(株)赤塚土木興業	300-2345	つくばみらい市長渡呂 252	0297-58-6213	0297-58-6260

● 平成25年度入会者

地区	氏名	商号	郵便番号	住所	電話番号	FAX 番号
大宮・大子	井上 将人	(株)井上工務店	311-1214	ひたちなか市和田町 1-10-13	029-263-0211	029-263-0215
大宮・大子	大内 榮樹	(株)大栄建設	312-0011	ひたちなか市中根六ッ野 4817-13	029-274-4658	029-275-3041
大宮・大子	猿田 俊充	(有)猿田工業	319-2132	常陸大宮市小場 973	0295-52-2216	0295-53-5261
大宮・大子	川崎 和洋	(株)川崎建設	312-0041	ひたちなか市西大島 3-17-45	029-272-3379	029-272-3490
鹿行	谷田川 智久	(株)ホソヤ工務店	314-0132	神栖市筒井 1422-3	0299-92-6630	0299-92-6659
鹿行	大川 雄生	(株)サンワ興業	314-0007	鹿嶋市神向寺 129	0299-82-7960	0299-82-7984

卒業された皆さん

地区	氏名	商号
高萩・太田	菊池 久義	菊丸建設(株)
高萩・太田	斎藤 英行	斎藤建設(株)
大宮・大子	石井 広一	(有)石井工務店
大宮・大子	田村 裕子	(株)川崎建設
鹿行	藤崎 政行	藤崎建設工業(株)
県南	高橋 良昭	松野建設(株)

編集後記

世論調査によると、どうも安倍政権や自民党よりも総理個人に対する支持率のほうが高いようです。私の周辺では「アベノミクス」の経済効果がまだはっきり感じられず、自分自身も首相の政策全てに賛成しているわけでもありません。しかし、5年続いた小泉政権の後で1年限りの短命政権が続き、いずれも発足して数か月後から支持率が下がり始めるパターンを見飽きた目には、安倍総理の絶好調ぶりは新鮮に映ります。思えば、一連の短命政権は小泉元総理の後を継いだ安倍氏から始まったわけで、体調を崩して辞任した首相が数年後にその座に返り咲くのは前例のないことです。細かい政策の是非はともかく、過去の失敗を反省して2度目のチャンスを生かそうとしている安倍首相の意気込みを見ると、何か励まされるような気持ちになります。

(総務委員会 柴 信一)